

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392700013		
法人名	有限会社ベルヴィ		
事業所名	やすらぎホーム鴨方		
所在地	浅口市鴨方町深田439-1		
自己評価作成日	平成26年2月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3392700013-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成26年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアの実施。 利用者様が楽しく自宅で生活しているのと同じ様な環境で過ごして頂ける様に各ユニット全職員が意見を出し合って取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームには様々な暮らし方が住んでいる。昼夜が逆転していても、職員は無理に皆に合わせようとせず少しずつ戻るよう自然体で付き合うようにしている。外に出たいと思う人には気が済むまで付いて行く。自分だけの世界を楽しむ人が居ても良い。それぞれが、可能な限り「自分流の暮らし」をここで楽しんでいただきたいと職員は願っている。その結果が今日のこの笑顔や穏やかさなのだろう。そして楽しかった事が各居室やリビングの壁に貼られた大型写真で再現出来、「あの時は嬉しかったよ」と私に説明し、また笑顔が増えている。利用者本人はもちろん、家族もここでの暮らしを喜んでおり、ホームの念願だった「第一回家族会」も昨年実現した。多数の家族が参加して家族から質問があった「ターミナルケア」について等、話し合ったと言う。この地域の中で家族とも連携を取りながら、このホームらしい成長を期待している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、ホーム目標やユニット目標を掲げ、全職員の意識統一を図っている。	1・2Fそれぞれユニット目標を掲げ「個別のケア」「スタッフ間の連携」「～だろうという希望的予測の介護はしない」等、ホーム全体の目標と合わせ、職員間で意識の統一を図り、日々共有しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児やボランティアによる出し物を楽しんでもらったり、地域清掃に参加するなどして交流を図っている。	すぐ近くに法人の小規模多機能ホームが出来、イベントがあれば利用者も一緒に参加し楽しむ等、双方の交流がある。地域の人からの声掛けもあり、氏神様の祭りに希望者と職員で参加し「あんぱん」をもらって喜んだり、地域の祭りには神輿がホームに立ち寄る等、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム新聞を発行し、ホームでの様子を知らせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、浅口市高齢者支援課長、民生委員、家族様代表と運営推進会議で意見交換を行い、より良いサービスを提供できるようにしている。	市の担当者、民生委員、家族等の参加があり2ヶ月に1回開催している。家族より「ターミナルケアについて話を聞きたい」との要望があり、事例報告をしホームの看取りの方針を話し合う等、有意義な意見交換をしている。また、1年間の議事録のまとめを家族に送付している。	運営推進会議の運営やその活用方法によっては、地域に密着したサービスに効果的な取り組みにつながり易い。運営規定に定めた目的を中心に引き続き検討して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修会に参加し情報の交換等を行っている。	市主催の認知症ケアに関する研修等には出来る限り職員が参加するようにしている。市の担当者は毎回、運営推進会議に出席しており、情報交換、意見交換等をしている。何かあれば相談をし、適宜助言、指導をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていないが、必要なカンファレンスを行うようにしている。	心身ともに拘束が必要な状況の人はいない。玄関の施錠はしていないので外に出たい人には職員がそっと付き添い散歩して帰る等、その人の思いを尊重している。身体拘束委員会では事例検討や問題点を話し合い、職員間で情報共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、言葉の拘束を行わないように常にスタッフ同士が注意し、接遇マナーを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2階に後見人制度を利用されている方がおられ、スタッフ会議などで勉強する機会を設けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、書類を見ながら説明を行い、不安や疑問が残らないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や物品購入などその都度必要な際には必ず家族様に連絡を取り、意向や要望などを聞くようにしている。	第1回家族会を開催した。家族アンケートを送付して複数の休日を選択制にし、事前に聞いてみたい事、疑問等の一口記入をお願いした。両ユニット合同の家族交流会は大多数の家族の参加があり大盛況だった。遠方の家族には「やまぼうし通信」に添えて内容を報告している	昨年の父の日・母の日のイベントで「家族会」を実施出来たのは、このホームにとって大きな前進と言えよう。是非途切れさせないよう継続し、定着させ、家族同士の交流や意見交換の場を大切にしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、代表者を含めての管理者会議やスタッフ会議を行い、意見交換や情報の共有を行っている。	社長、専務、各管理者、職員等で全体会議を毎月開催し、ヒヤリハット報告・原因と対策等の情報共有や意見交換をしている。各ユニット毎の職員会議では介護記録の記入方法を話し合い、職員からの提案や意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれがやりがいを見つけ、向上心を持ちながら働ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護技術向上のため、研修へ参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われる交流会や勉強会に参加し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの際、家族様や本人様より生活状況や要望・不安等を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの際、家族様から不安なことや要望などを聞きながら対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様の要望に対応し、出来る限りのサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様本人が出来る事、出来ない事を見極め、一人一人にあった支援が出来るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は居室でゆっくりお話ししていただけるように対応し、日頃の様子も機会あるごとにお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間に関係なくいつでも面会に来ていただけるようにしたり、馴染みの物を持ち込んで使っていただくようにしている。	昔馴染みの近所の友人が病院受診のついでに利用者の好きなおはぎを持参してくれたり、前の勤務先の社長夫婦が洋服等持ってきてくれる人もいて、親しい人達との交流が続いている人もいます。職員はこの様に馴染みの関係を大切に支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが仲介役となり利用者様同士が関わりやすい雰囲気を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた場合は、面会に行かせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が常に利用者様に対し目配り、気配りができるように心がけ、声掛けを行うようにしている。	日々のケアの中から利用者の発言、職員との会話を正確に拾いあげ記録に残す努力をしており、利用者との真摯に向き合い、思いや心の内を「気づき」として受け止めようとしている姿勢を感じる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューにて生活歴や趣味などを聞いたうえで職員との情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の生活リズムや行動、心身状態を把握し、小さな変化も見逃さないように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの担当職員がケアマネと一緒に家族様の思いや本人様のやりたいことを入れたプランを作成しスタッフ会議を行っている。	生活援助計画の意向・目標を利用者の言葉にして具体的に記載しており、実現しやすい目標に設定している。長谷川式スケール、ADL評価表を定期的に更新・作成し、アセスメントをしながら利用者の状況の変化をプランに活かそうとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し健康チェックや日々の生活状況などを記入しケアプラン作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の状況に応じて通院などを行い、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で支援に関する情報や地域の情報を聞き活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人様・家族様が希望するかかりつけ医であるが、場合によっては家族様・本人様と相談の上、変更することもある。	利用者の症状を把握する目的もあり、内科は主に職員が受診同行しているが、他科は家族が受診付き添いしている人もいる。利用者個々の受診連絡ノートを持参し、医師の所見、職員からの相談等、記録に残している。病状に変化があれば家族にも電話等で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化も見逃さないようにし、早期発見に努めている。必要に応じ看護師に連絡し指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を医療機関に提出し情報を共有、定期的に面会に行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては家族様に説明を行い確認をいただいている。医師の協力を得て家族様の意向を聞きながらチームで取り組んでいる。	〇〇さんは家庭で看取るような自然な最期「老衰」で家族に囲まれ、職員も一緒に見送った。医師が延命処置をやめてからも職員の懸命なケアにより安らかな余命を過ごしてもらった。今回の経験で職員も達成感が持て、ターミナルケアに対する自信にも繋がった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様のかかりつけ医、家族様の連絡先を記入した一覧表を作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(6月・12月)避難訓練を実施している。	消防署の立会いの下避難訓練を実施し、指導してもらっている。非常階段を使って2階からの避難誘導をしたが、車椅子の人の避難方法をどうするか等の課題も残った。運営推進会議でも行政から地域の人との協力体制についての助言があり、今後に向けて取り組んでいこうと思っている。	運営推進会議で災害対策や地域との協力関係を検討していく中で、今までの話し合いを基に、さらに具体的なシュミレーションを加え、より現実的・具体的な対策を進めて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかい等につけながら一人ひとりに合ったケアを行っている。	利用者はお客様であり「～してあげる」ではなく、一人の人間として尊重し、言葉遣いには気をつけている。職員の少し気になるような発言に対しては管理者がその都度、注意喚起を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけを行い、そこから表情を読み取りながら本人様の思いを伝えられるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調等にあわせて利用者様がやりたいことを無理なく行えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が着たい物を自由に着ていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が自ら楽しんで食べられるように支援している。	食事は外部の専門業者を利用しており、献立表を基に食材が届くが、その人の状態に合わせ、とろみ、ゼリー状にする等、職員がひと手間かけている。時間も幅を持たせ楽しく食べてもらう配慮をしている。出来る人には片付けやテーブル拭きを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、必要に応じて栄養強化食品を補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、必要に応じて見守りや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、個々の排泄リズムを把握している。	パットを変更したら夜よく眠れるようになったり、こまめな交換で便臭がしなくなった人等、パットの工夫で排泄や生活が改善した人が数名いる。常に職員間でケア方法を話し合い試行錯誤しながら支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を確認し、十分な水分補給を行いスムーズな排便を促す。医師と相談の上、緩下剤を内服されている利用者様もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調等を確認の上、入浴していただいている。	一般的な家庭風呂での入浴はリラックスできる時間であり、職員とコミュニケーションを取りながら楽しく入浴している。トイレと浴室が直結しており失禁時等も臨機応変に対応できる。中には二人介助している人もいるが、入浴に関しては問題ない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし生活のリズムを整えている。眠剤を服用されている利用者様は日中の様子を観察し、日中活動の妨げになってないかを確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに効能書きを綴じて整理し、確実に服薬するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様にあった支援をおこなうようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事などには全員で揃って外出できるようにしたり、誕生日等にはスタッフと一緒に外出することもある。	軽度で外出希望があり、行政に相談しその指導の下で外部の有料介護サービスを使っている人もいる。後見人とも相談しながら月1回の外出支援をしており、本人もとても喜んでいるので、今後もこのような個別の支援を続けていきたいと思っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っているが、必要に応じて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフが間に入り、電話の取次ぎなどを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダから採光が入り、暖かい日は日光浴を行っている。また、畑や花を植えるなど自然に触れることの出来る環境を提案している。	職員手作りの色々な種類のお雛様で飾られたリビングは梅や水仙の花も活けられ季節感が感じられる。1Fユニットでは「雛祭り」の行事があり、ゲームをする等、賑やかで楽しそうな笑い声で溢れていた。2Fユニットは担当職員の都合で明日の予定だそうだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所よりリビングの様子が見渡せ、思い思いの場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス・ベッドは備え付けだが、その他は使い慣れた物を使用していただいている。	ホームの周りは桃畑が広がる丘陵地帯であり、季節を問わず各居室からも眺めは抜群である。部屋には大きく引き伸ばした行事の笑顔の写真がコメント付きで貼ってあり、見ているだけで楽しくなる。それぞれが馴染みのある品々に囲まれ落ち着いた暮らしをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで危険のない環境整備を提供、安全で安心な生活を送っていただけるように工夫している。		